

## 令和 元年度 森林総合研究所九州地域公開講演会

開催日時：令和 元年11月13日(水) 13時30分～16時30分

開催場所：くまもと県民交流館パレア10階パレアホール(熊本市中央区手取本町8-9)

テーマ：次世代の林業技術を考える

参加者数：94名

### 講演

#### ○九州支所長 陣川 雅樹

##### 先端的な機械技術の紹介

我が国の森林(人工林)は、その多くが成熟した森林に育っており、山を健全な状態に保つためにも木を伐って利用し、そこに新しい苗木を植えなければならない。これらの生産活動を効率的に行うためには林業機械が不可欠である。様々な高性能林業機械や最先端の技術が導入された機械技術について紹介した。

#### ○九州支所森林生態系研究グループ主任研究員 山川 博美

##### 再造林におけるドローンの活用

ドローン(UAV)は、技術の進歩と低価格化に伴い様々な場面で使われるようになってきた。再造林においても、地形(地位)、植栽木の位置や高さ、雑草木の種類や高さなどを面的に把握し、成長量の予測や下刈り要否の判断などへの活用が期待される中、造林地における活用法を紹介した。

#### ○林業工学研究領域収穫システム研究室長 中澤 昌彦

##### ICTを活用したハーベスタシステム

海外の先進的な地域では、ICT等を駆使した林業のスマート化が進められている。核となっているStan For Dについて説明し、日本林業への適合や、開発中のICTハーベスタシステムを紹介した。

#### ○九州育種場育種課育種研究室長 栗田 学

##### 用土を用いない新たなさし木発根誘導技術

九州地域においては、多くのスギ人工林で主伐が進む中、再造林用の苗木の安定供給が課題となっている。用土を用いない新たなさし木発根誘導技術は、さしつけに土を使わないため、苗畑の維持管理、さし床の準備や掘り取り作業等労力の軽減が期待される。この新たな技術の概要を紹介した。

### 総合討論

講演後は、発表者と会場参加者による総合討論を行い、活発な意見交換がなされた。



講演1(陣川)



講演2(山川)



講演3 (中澤)



講演4 (栗田)



総合討論